

15 リゾート開発地域における森林 施業について

湯田営林署 ○土谷 登
加賀 誠
高橋 律美

1 はじめに

夏油高原野外スポーツ地域 (519.11ha) は、平成3年6月3日、森林空間総合利用地域に指定され、平成5年12月のスキー場オープンに向け工事が進められている。同地域は、第1次施業管理計画で森林空間利用林に区分され、風致の維持を図るとともに野外スポーツ地域の機能発揮に努める施業が求められている。地域内には、伐期齢に達した人工林が73.81haあり、平成5年度に一部伐採を行う予定である。伐採に当たっては、特に自然景観等に配慮した施業を行うこととしておりこれについて発表するものである。

写真-1 夏油高原野外スポーツ地域遠望



凡 例
実線-野外スポーツ地域
点線...613林班ほ小班

2 林況及び伐区の設定

伐採を予定した林分は613林班ほ小班で、面積は73.81ha、林齢70年生、蓄積は185百m³、樹種割合はスギ56%、カラマツ34%、広葉樹10%である。同小班には、中央部にペンション村、西端部にスキーコース、残りの部分にスノーモービルコースの設置が計画されている。(設置時期は未定)

図-1 施業区域図 (613林班ほ小班)



伐採予定箇所は森林空間総合利用地域の利用計画に支障がなく、搬出が容易である南東部を選定した。伐採方法は、林況に応じて複層伐区、間伐区に区分した。表-1は区分した伐区の樹種別の蓄積と本数を示したものである。複層伐区は、ha当たりの蓄積が506m³と大きく、造林木（スギ）の占める割合が90%と高い箇所に設定した。間伐区は、ha当たりの蓄積が237m³と小さく、広葉樹の割合が29%を占めており、本数でも45%と半数近くを占め、造林木の間伐を繰り返すことにより天然林へ導くことが可能である箇所に設定した。

表-1 伐区別の林況

複層伐区

	スギ	広葉樹				計
		ブナ	ナラ	その他	小計	
蓄積 m ³ (%)	454 (90)	41 (8)	5 (1)	6 (1)	52 (10)	506 (100)
本数 m ³ (%)	852 (73)	252 (22)	27 (2)	34 (3)	313 (27)	1,165 (100)

間伐区

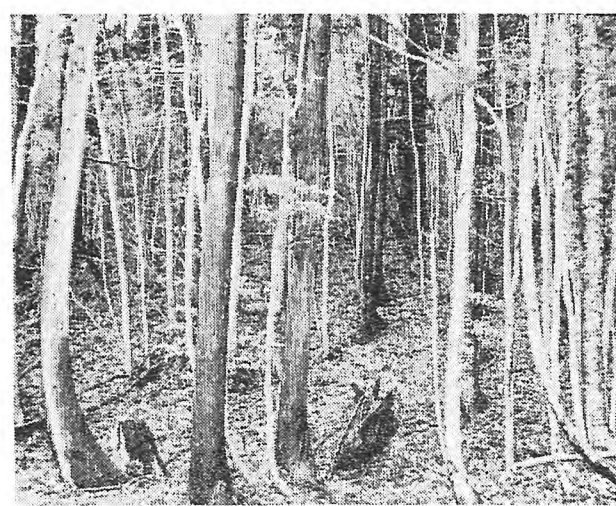
	スギ	広葉樹				計
		ブナ	ナラ	その他	小計	
蓄積 m ³ (%)	169 (71)	44 (19)	13 (5)	11 (5)	68 (29)	237 (100)
本数 m ³ (%)	494 (55)	238 (27)	92 (10)	68 (8)	398 (45)	892 (100)

(注) 蓄積、本数はha当たりの値、()は割合

写真-2 複層伐区のエリク



写真-3 間伐区のエリク



3 施業方法

(1) 初回の複層伐

ア 伐採方法は搬出が容易である帯状伐採とし、伐採帯の幅はおおむね樹高程度（20～30m）とした。伐採帯の方向はスキーコースに対して直角に設定し、スキー場方向から伐跡地が見えないように配慮した。

イ 保残帯は伐採帯の幅のほぼ2倍程度（B、Cの部分）残し、25%の間伐を行い複層伐区全体で伐採率を50%にした。

ウ 搬出方法は、県道開設時に設けていた3箇所の取り付け口から作業道を開設し、県道から見えない林内土場までトラクタで集材する予定である。

エ 更新はスギを植栽する予定である。

(2) 2回目以降の複層伐

ア 植栽したスギの伐期齢は、第1次施業管理計画の「施業管理の基準」にしたがって100年とした。このため30～35年毎に複層伐を行い、4回目で最初の箇所に戻る事となる。

イ 2回目の複層伐では、Bの部分の皆伐・新植し、A、C部分を間伐することとする。

ウ 3回目の複層伐では、Cの部分を伐採することとなるがこの箇所は、A、Bと両側が皆伐されることと、2回の間伐により林内の照度が上がり、被圧されていた広葉樹の成長が期待され、3回目の複層伐が行われる60～70年後では、スギと広葉樹の混交林になることも予想される。

このため、3回目の複層伐を行う時期にCの部分を天然林に誘導することが可能な場合は、A、B、Cとも間伐を行い人工林－人工林－天然林の複層林を目指すこととする。天然林へ誘導することが困難な場合は、Cの部分は皆伐、A、Bの部分は間伐を行い、人工林－人工林－人工林の複層林を目指すこととする。

図-2 伐採計画図（初回）

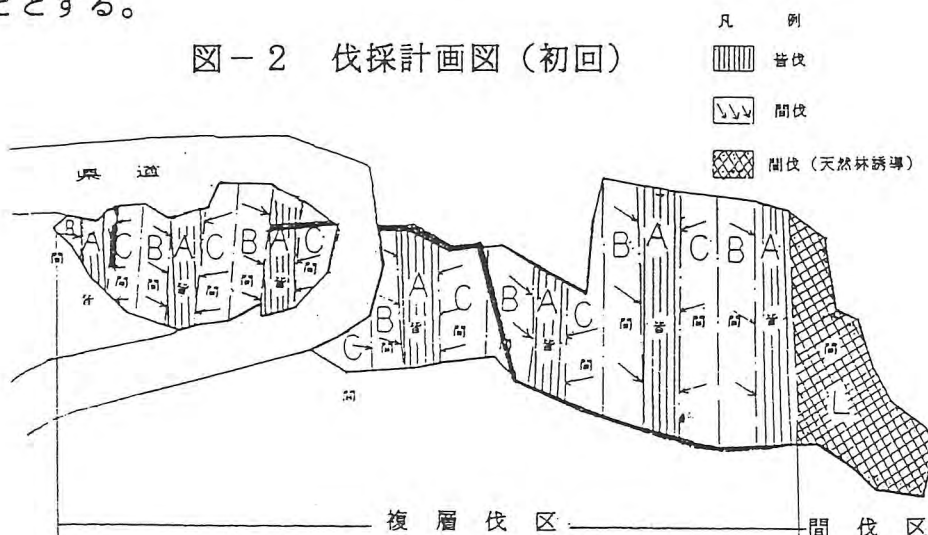


図-3 伐採計画図(2回目)

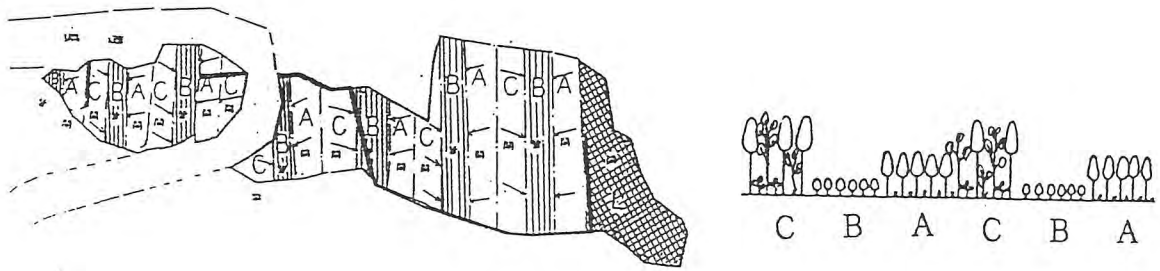


図-4 伐採計画図(3回目)人工林-人工林-天然林型

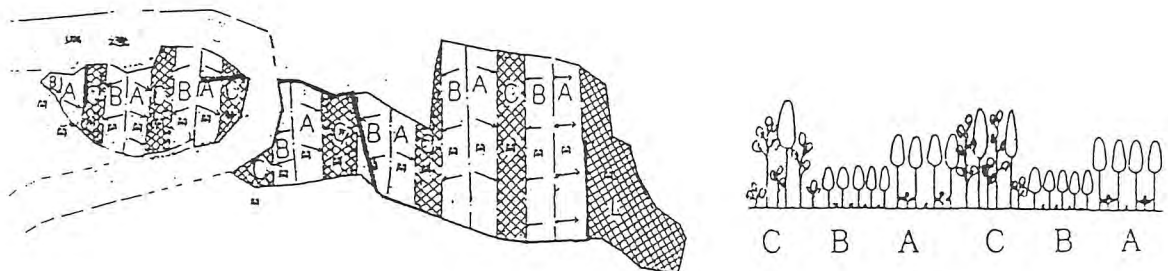
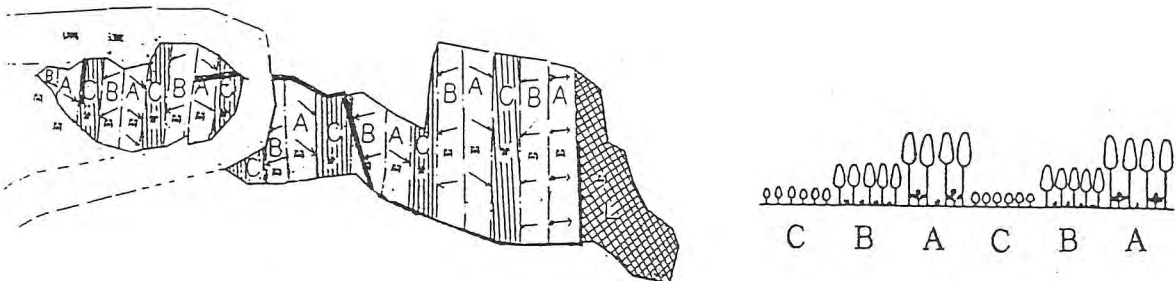


図-5 伐採計画図(3回目)人工林-人工林-人工林型



(3) 間伐区

複層伐区で伐採を行う度に、30%の間伐を繰り返し、広葉樹天然林に誘導していくこととする。

4 おわりに

今回伐採を予定している箇所にはリゾート施設の計画がないため、スキーコース及び県道からの景観保全を主に施業方法を考えた。今後、施設が計画されている箇所周辺の森林で施業を行うに当たって、今回の施業の結果を生かし、野外スポーツ地域に適した施業を行っていきたいと考えている。